

平成30年4月1日改訂

学校いじめ防止基本方針



伊勢原市立緑台小学校

伊勢原市立緑台小学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

(本校のいじめ防止に関する基本的な姿勢)

いじめとは、児童等に対して、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットによる行為も含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

本校では、すべての児童がいじめを行わず、ほかの児童に対して行われるいじめを認識しながら放置することが無いよう、いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童の理解を深めることを旨として、いじめの防止等のための対策を行います。

また、家庭や地域、関係機関との連携を大事にし、児童が多くの人々と関わり、多くの目で見守られるよう学校を中心としたコミュニティーづくりに努めます。

(いじめの禁止)

本校児童は、いじめを行ってははいけません。

(学校及び職員の責務)

いじめが行われず、すべての児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者・地域の方、関係機関との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、再発防止に努めます。

2 いじめの防止等に関する内容

(1) いじめの未然防止のための取組み

- ・ 児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通うコミュニケーション能力の素地を養うため、すべての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図ります。
- ・ 児童が自主的に行う、いじめ防止に資する活動の支援を行います。
- ・ 交流活動や行事、ボランティア活動等を通して保護者並びに地域の方、その他の関係者との連携を深め、地域全体で児童を見守る体制づくりに努めます。
- ・ いじめは決して許されないという共通認識に立ち、全教職員がいじめの態様や特質等について校内研修や職員会議を通して共通理解を図り、組織的に対応します。
- ・ 児童の少しの変化も見逃さず、見守っていくために、校務の効率化を図り、児童とかかわる時間を多くするように努めます。

(2) いじめの早期発見のための取組み

- ・ いじめを早期に発見するため、在籍する児童に対する定期的な調査を次のとおり実施します。
 - ①児童対象いじめアンケート(友だちアンケート)調査
年3回(6月、11月、2月)
 - ②個人面談を通じた学級担任による児童からの聴き取り調査
年3回(6月、11月、2月)
- ・ 児童及び保護者がいじめに係る相談を行うことができるよう次のとおり、相談体制の整備を行います。 <教育相談担当>
 - ①スクールカウンセラーの活用
 - ②いじめ相談ポスト(みどりポスト)の活用 <保健室前に設置>
- ・ 相談・通報のあった事案は、「いじめ防止対策委員会」を通して情報共有に努めます。
- ・ いじめの防止等のための対策に関する研修を年間計画に位置付けて実施し、いじめの防止等に関する職員の資質向上を図ります。

(3) いじめの早期解決のための取組み

- ・ いじめを見た、またはその疑いがある行為を見た場合は、すぐにいじめをやめさせます。
- ・ いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無の確認をします。
- ・ いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童保護者に対する支援と、いじめを行った児童への指導とその保護者への助言を継続的に行います。
- ・ いじめを見ていた児童等にも自分の問題として捉えさせ、誰かに知らせる勇氣を持つよう指導します。
- ・ はやしたてたり、同調している児童に対しては、それらの行為がいじめに加担する行為であることを理解させるよう指導します。
- ・ いじめの当事者間における争いを生じさせないよう、いじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するために必要な措置を講じます。
- ・ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、伊勢原市教育委員会及び伊勢原警察署等と連携して対処します。
- ・ 子どもが抱える課題に応じて、児童相談所等の福祉機関や医療の専門機関等と連携して対処します。
- ・ いじめが解消している状態と判断した場合でも、いじめを受けた子ども及びいじめを行った子どもを注意深く見ていきます。

(4) インターネット上のいじめへの対応

発信された情報が急速に広がってしまうこと、発信者の匿名性、その他のインターネットを通じて発信される情報の特性をふまえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、児童及び保護者が効果的に対処できるように、情報モラル研修会等必要な啓発活動を行います。

3 「いじめ防止対策委員会」の設置

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、「いじめ防止対策委員会」を設置し、学期に2回程度開催します。

いじめと疑われる相談・通報があった場合には、会議を緊急開催します。

(1) 「いじめ防止対策委員会」の構成

| |
|---|
| 管理職、教務担当、児童指導担当、学年主任、教育相談担当者 教育相談コーディネーター、養護教諭、S C 等 |
|---|

※検討事項や事案内容に応じて、依頼可能な第三者の参加を柔軟に検討し、校長が任命します。 <地域連絡会等のメンバーを想定>

※緊急開催の場合は、対応可能な委員で構成します。

(2) 活動内容

- ・いじめ防止等の取組内容の検討、基本方針・年間計画作成・実行・検証・修正
- ・いじめに関する相談・通報への対応
- ・いじめの判断と情報収集
- ・いじめ事案への対応検討・決定
- ・いじめ事案の報告

4 重大事態への対処

学校は、いじめにより児童の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、直ちに伊勢原市教育委員会に報告をします。

伊勢原市教育委員会は学校からの報告を精査し調査について、学校が主体となるか教育委員会が主体となるかを判断します。

(1) 学校が調査主体となる場合

ア 学校が行う重大事態の調査は、学校に常設する「いじめ防止対策委員会」が主体となって実施します。

- ・名称は「緑台小学校重大事態調査会」とします

・調査組織の人選については、

(ア) 学校に常設する「いじめ防止対策委員会」から校長

(イ) 保護者代表としてPTA会長、副会長

(ウ) 第三者として民生委員児童委員、主任児童委員、青少年相談室補導員等

(エ) 児童に寄り添う視点から市のSC、市のSSW等

(オ) 事務として児童主事

いじめの事案によって上記(ア)～(オ)の中から柔軟に人選する

(2) 教育委員会が調査主体となる場合

イ 伊勢原市教育委員会を通じて市長に報告し、伊勢原市教育委員会が設置する「伊勢原市いじめ問題専門調査会」により調査を実施します。

※ 構成員については、伊勢原市教育委員会に一任し、専門的知識及び経験を有する者等の第三者の参加を図り、当該調査の公平性・中立性を確保するよう務めます。

(3) 活動内容

- ・発生した重大事態のいじめ事案に関する調査
- ・調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた児童やその保護者に対して、適時・適切な方法での情報の提供・説明
- ・伊勢原市教育委員会への調査結果報告
- ・調査結果の説明について、いじめを受けた児童・生徒又はその保護者が希望する場合は、所見をまとめた文書を添えて、調査結果の報告を市長に提出

5 その他

いじめを隠蔽せず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校評価項目に加え、適正に自校の取組みを評価します。

- ・いじめの早期発見に関する取組みに関すること
- ・いじめの再発を防止するための取組みに関すること